

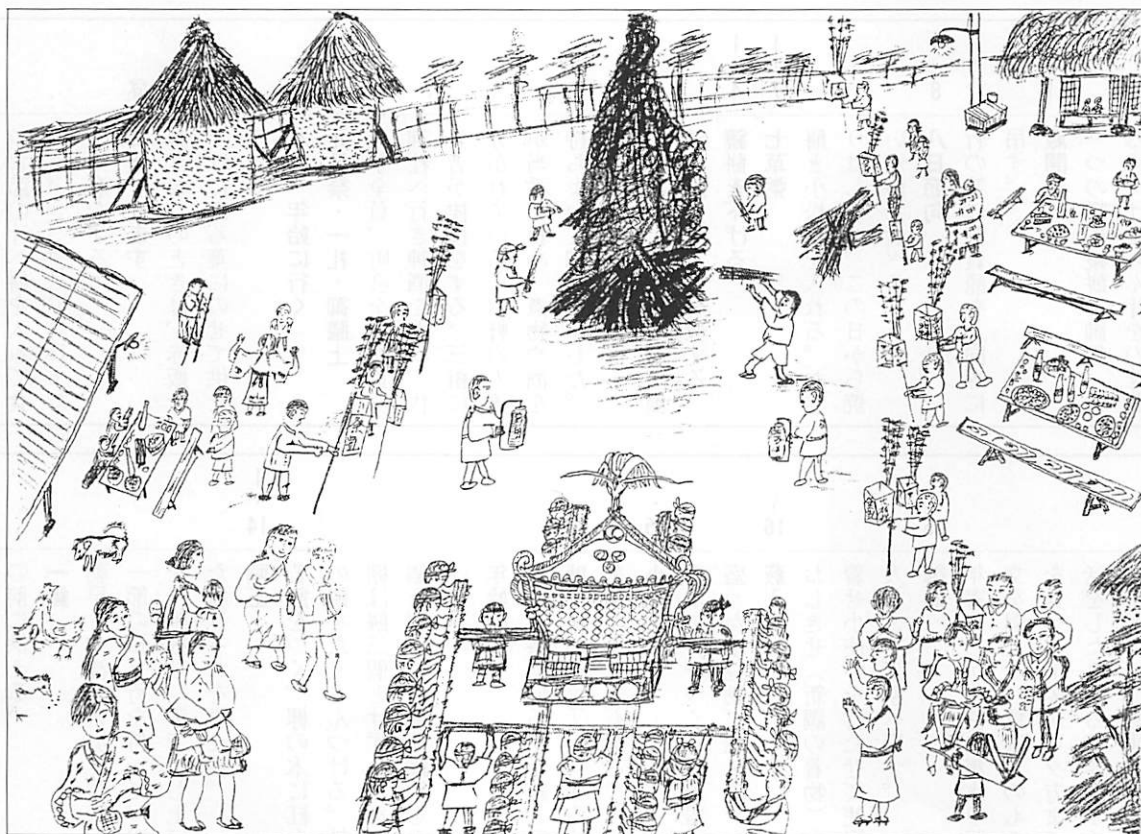
みず
水

くるま
車



(財)新松戸郷土資料館館報

第7号



財団法人 新松戸郷土資料館

〒270 千葉県松戸市新松戸3-27

新松戸市民センター(三階)

電話 0473-44-1909

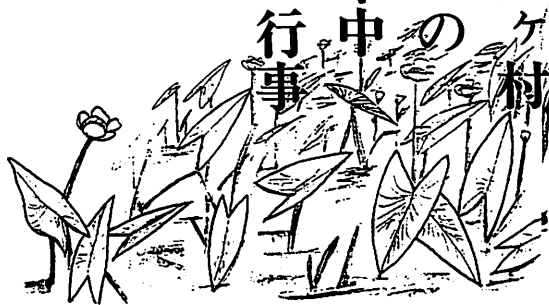
発行年月日 平成6年3月末日

もくじ 大谷口新田大杉様の祭礼 表紙

◇旧六ヶ村の年中行事	
◇大谷口.....	2
◇大谷口新田.....	4
◇幸谷.....	7
◇小金.....	9
◇二ツ木.....	10
◇横須賀.....	12
◇日誌抄.....	13
◇既刊館報一覧表・館利用案内・編集後記.....	14

旧六ヶ村

年中行事



大谷口の年中行事

1・1 元旦・初詣

朝

大谷口神明神社へ賽銭を持つてお参りをする。神明神社から弁天様へ行き、天神様へと足を伸ばす。神明神社へは小さなお供えを飾る。(椎や樫の葉の上にのせる)
三日まで雑煮を食べる。支度は男達とする。餅は四角な切餅で七日までは焼餅は食べない。大根、里芋、か

昼

つお節の汁へ餅を入れて食べる。(大晦日に三日までの用意をする)
御飯・なます
お宮参りのときは、赤飯をそばにある葉にのせて供える。

午後

お寺へ年始に行く
元旦祭・一札・御膳上
氏子全員、町会全員が神明神社へ行き神酒を上げ、代表者が挨拶をする。三組に分かれて十六軒の人達が当番を務め、煮物や酒を持ちよって御膳上をした。現在では重箱を持ち寄ることもなくなり、集会所で簡単な直会をして解散する。
鏡餅を下げる
七草粥
餅と小松菜を入れる。お参りはしない。この日から焼いた餅を食べる。

1・8

1・11

八日節句
竹の竿に背負籠を上向きに吊す。
蔵開き
一つの膳に鏡餅と御飯、するめ、けんちん汁をのせ蔵

の前に供える。

一鍬

朝早く、洗米と塩と門松の一節の松と竹を持って、田を一鍬掘り、鍬で持ち上げた所へそれを供える。

1・14

若餅をつく。樺の木に紅白の餅をたくさんつける。神棚は餅三個とけずり花を二個上げる。仏壇は鏡餅を上げる。
年始回り
講の順番に回る。半紙と砂糖を持って行く。(するめをつけるときもある)

1・15

小豆粥
卯木で箸をつくり、土器に盛った小豆粥に添える。
蕨入り
おしきせ(新調の着物)を着せ小使いを持たせて使用人などを実家へ帰す。

1・16

1・16

御籠
年寄たちがお宮に集まり経文を唱える。持寄りのものを食べ、午後から夕方まで話をしたりする。参加する年寄が少くなり現在はなし。

1・20

稲の花
大谷口新田と同じ
恵比寿講

1・25

御飯、お酒などを恵比寿様に供える。大谷口新田のように金銭は供えない。
天神講

2・

長い間一軒の家でしていたが負担をかけてはいけなかったのでお宮でするようになった。味噌、醤油やお金などを各家からもらい、山で薪をとって来て子供達が炊事をする。一晩お宮に泊る。子供達だけの講なので、面白がって夜中に青年団がおどかしに来るのが恒例になっていた。子供達はたらの木(棘が痛い)を利用して垣根をつくり準備をした。親の作ってくれた笹団子を食べる。この行事はその後一月四日に行うようになった。
初庚申
節分の終ってはじめの申の日、若い嫁は初めて奥さん達の仲間入りをする。赤飯を持っていく。

2・1	疱瘡日待 お茶菓子を持ってお宮に集まる。
2・3	節分祭 大豆の枝に鯛を挿し、枝の枝と共に神仏に供え、豆を播いて邪鬼を払う。枳を神棚に上げる。
2・	初午祭 二月初めの午の日。おびしやで神社へ村中の人が寄る。村の一年間の行事や当番を決める。重箱にご馳走を入れて持寄り酒をのむ。
3・	百万遍 お宮で年寄が中心となつて行う。年二回していたがはつきりとした日は不明。
3・3	雑祭 道普請 水のゆるんだ頃の田植え前。農家組合が主になって天気の良い日を選んで皆で協力して行う。
3・21	彼岸 檀家が集まってお題目となえる。これは春の彼岸だけではなく毎月一日と花祭・施餓鬼・お会式にもお題



江戸川八十八ヶ所大師講送り込み

4・1	目を常真寺に集まるとなえる。 種払い 種もみを溜池に冷やす。溜池をかい出してへどろを取ったり清潔にして湧水をあらためて溜める。 決まった家の溜池を地域の人達は利用させてもらっていた。苗代は現在の総武流山鉄道の通っている東側に作つてあった。地域の人はその溜池の水をもらつて田植えを済ます。そのお札に水を貰った人達が今度はその家の田植えを手伝つた。
-----	---

4・初旬	大師講 紅白の幕を張り長老を牛車に乗せ、札所寺になつていく大勝院へ送り込む。二列で行き最前列に二人の金棒つきが歩く。札所寺では、八十八ヶ所巡りを終つた年寄たちが泊り込みをしてお祭りをする。送り込みのときは男衆が派手な裾模様を着物を着て列に加わる。 種蒔き
4・20頃	共同蒔きではなく各々でする水蒔といつて三センチ程水を溜めた所に稲の種を蒔く。(田の土がやわらかい為に直蒔をすると土にもぐつて腐つてしまうために水の上から蒔く。するとゆっくり沈み土の上に乗る)湧水の為水温が低いので発芽が遅い。下谷は土がかたい為土の上に蒔いても地に中々なじまないためにおうちやく棒で上からなじませる。坂川の水を溜めてから田へ流すので、温度が高いので発芽が早い。月六齋は使用人のいる家は行った。大山

4・24、25	東漸寺御忌 仕事は休み。学校も午後は休みとなり皆で草餅や御馳走を食べる。
5・5	端午の節句 男の子が生まれた家は賑やかに初節句を祝う。菖蒲、蓬などを屋根に上げたり、風呂に入れる。大杉様にお詣りに行く。
7・14	早苗鑿正月 田植えの終つた家では、あんころ餅をついて祝う。村の人や親類にも配る。苗代の苗を一ワ(二、三ヶ所しぼる)を荒神様に上げる。 宮なぎ・土用干 お宮の掃除をする人と獅子頭の手入れをする人にわかれた。獅子頭は一軒の家で預かっていたのでそこで土用干をした。この日は小麦まんじゅうを作つて食べた。(小麦粉で作つたせんべい状のものを焙烙で焼き、二枚の間にあんこをはさんだどら焼の様なもの)

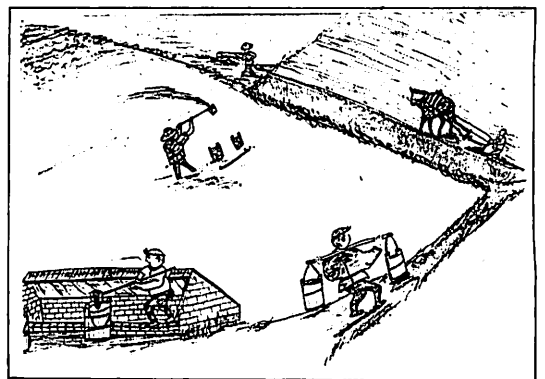
9	8・16	8・14	夜	8・13
十五夜 現在はあまり行わない。	送盆 新盆の家では灯笼立てを一日にする。朝飯前に親類や近所の人が集まり手伝う。終ってからうどんと御飯の両方を出してねぎらう。提灯は寺に上げる。寺では墓の所に新竹で鳥居に作って縄を張り提灯を下げる。	ける。 昼はうどん。夜は白飯をあげる。	お迎えは男親と長男で提灯を持って寺へ行く。お迎え団子を作る。 朝、素足で寺へゆく。仏様にあずきの御飯と茄子、いんげん、南瓜を煮たもの。	迎盆 ガラガラ（お棚）を角と入口、お寺の六地藏、墓石に一つずつ上げる。上げる場所の多い家は三十数個も作る家があった。このお棚用のまこもは、坂川にとりにいった。型は寺は四角、家は六角にする。花立ては新竹でつくる。

11・30	11・20	11・15	10	
お汁粉を食べる。	鼻よごし お頭付で、白飯を上げる。	七五三の祝 初孫のいる家では賑やかにする。	刈切 稲刈りがすんだ日にぼた餅を作って食べる。	旧暦で、稲刈りの終わった頃に行く。 秋彼岸 秋分の日を中心とする前後三日間、計七日間をいう。彼岸まいりは寺に新米を持ってゆく。新盆の家は（四角の容器には二升、三角の容器には一升）容器に入れて納める。

12・31	12・28	12・22	12・8
大晦日 掃除をした神棚にそばを上げて一年が終る。	二十八日餅 朝四時に起きて二俵から三俵の餅をつく。のし餅、あられ用、かきもち用、お供え用と一年分の餅を男の人がつき、女の方は各々手分けして手伝う。	冬至風呂 柚子湯に入る。きざんだ柚子に砂糖をまぶして食べる。煤払い 25日までに終らせる。竹の先をしばったもので煤を落とす。薪を使っていたので天井その他に一年分の煤がたまっているの、畳も上げの煤払いは大変だが大事な行事でもあった。	八日節句 籠を下向きに吊す。

大谷口新田の年中行事

1・1 元旦・初詣
正月の三ヶ日は家を継ぐ人が初水を汲み、雑煮を作る。暮の内に用意をした八ツ頭、大根、小松菜へ、焼餅を入れる。女や子供は、産上様におさんこ（洗米）を持って稲荷神社へ初詣に行く。家に残った男は、初水を神棚仏壇、家内の稲荷様へ供え、倉、納屋、井戸などには御神酒とお供えをそなえる。昼は御飯となますを神



肥打ち

1・4	<p>の膳に盛る。 元旦祭・一札 氏子一同が稲荷神社に集り、神前に御膳上を行う。海、山のもの、里のもの、御神酒、洗米、粳、塩などを奉獻する。 仕事始 農機具の手入れや、軽い仕事を午前中だけ行う。 初荷 市場が始まるので初荷を出荷する。 七草粥 粥に餅、なずなを入れる。粥を祝ってから神社にお詣りする。</p>
1・8	<p>八日節句 竹竿の先に籠をくくり、庭先に高く飾る。その年も幸運であるようにという意味と、多く幸運を受取りたいという意味で籠を上向きにする。 蔵開き 大晦日に閉じた蔵を開く。お頭付の魚や、洗米、塩を供える。魚は鮓、もしくはかつお節の時もある。</p>

1・14	<p>お日待・若衆祭 若い衆の祭で現代の成人式と似たもの。数え年十五歳になった氏子の長男が氏子の仲間入りをする日。仲間入りを済ますと、村中の共同作業(川普請・道普請・冠婚葬祭)への参加を許される。お日待の宿は輪番制で、宿の番の家は、正月、お日待、初午祭、大杉様、浅間様、秋祭等を取り行った。 初耕起・一畝・田起し 恵方の田畑に畝入れをする儀式。家の中心の働き手、もしくは野良大人(使用人)が行い、恵方に田畑のない家は、恵方(あきのかた)に向って耕す。 池弘・かい堀 個人所有の池や、堀を汲み出して、鮓やなまずを取る。藪入りの準備として昆布巻、甘露煮、なまずのたたきなどにして保存した。 藪玉 川柳の枝を使う。丸餅を枝に挿し、枝を利用した木の</p>
------	--

1・15	<p>花を咲かせる。色はつけず自然の色合いで素朴なもの。餅は暮以来初めてつく餅なので、若餅という。 御籠 十四日の夕食後、各氏子達が神社に集まり、般若心経を唱える。 小豆粥 前年の秋に採れた小豆を入れて粥をつくる。細葉の川柳の枝も箸の長さに切り、先を四つ割にしたものを小豆粥につけて仏壇や神社に供える。 藪入り 嫁・婿・雇人等が生家へ帰り休養する。大体十五〜十七日の間。鼻よこしといってせんざい等がこちそうとなる。 稲の花 雑煮の汁をみご(稲の穂の粉を落したものの)の先につけ、米の粉をまぶしこれを二、三本ずつ皿の上に寝かせて神棚、仏壇に供える。神社や庚申塔にも供える。 恵比壽講</p>
------	--

1・25	<p>夜は各家で頭つきの魚に御飯を供え、又一升枴に金銭を入れて、高脚のお膳に飾る。各講の信徒が集まり、その年の代参入を決め酒盛りをする。 天神講 天満宮の祭。しん粉団子をつくり祝う。笹竹の先に団子を25個つけ、天神様に奉獻する。御神酒を供え、参拝者にもすすめる。子供達の祭で、前日氏子の家からの米・醤油・砂糖などで、団子をつき直して汁粉を作ったり、五目飯等で一日中お祝をする。すべて六年生が長となり、この晩だけは神社に泊ることを許された。 疱瘡日待 天然痘を払う祭。現在は安産の神に変わり婦人の子安講になった。小豆飯を炊き神様に供える。市川の真間山手児奈堂へ代参し、東福寺の住職にお経をあげてもらう。 節分祭 大豆の枝に鯛を挿し終の枝</p>
------	---

<p>2・8 初午祭</p> <p>村で一番の行事。祈前とい つて前年に御祈を受けた家 が宿になり、神社に御膳を 上げ祝う。宿の家が接待役 になる。主人、婦人、若衆 等を招待して、前年嫁いだ 花嫁や花婿は上座に坐わる。 大根、柳の根等で男女の型 のものを作りお飾をする。 三日間にわたって行事を行 い、子供は中食を宿の家ま で来てご馳走になる。宿の 組の人は宮堀をして鮒、鯰、 鰻、ぎんぎよっぱち、やき もっこ、たなご等をとって 膳につけた。一年にこの日 一度だけ宮堀の魚を採るこ とを許された。</p> <p>初庚申 その年始めてのかのえ申の</p>	<p>2・8</p> <p>と共に神仏に供え、大豆を 播いて邪鬼を払う。成田山 の不動講の代参人が福豆を 貰って来て年男となる。神 社に氏子一同が集まり、一 斉に福は内、鬼は外の掛声 をかけ、福豆を庚申塚など にも播く。</p>
--	--

<p>3・3</p> <p>女の子のいる家ではお雛様 を飾る。厄病除と称して村 中の老人子供が集まり、大 きな数珠を輪になって回す。 その数珠を身体が悪い部分 にこすりつける。</p> <p>女化講</p> <p>二月の初午の時に牛久町の 女化神社に代参した人が、 女化神社の砂を持ち帰り、 日の良い時を選んで苗代に 苗がよく育つように願って 播く。</p>	<p>2・27</p> <p>日。庚申を信じれば小使銭 に不自由をしないという言 伝えがあった。</p> <p>大杉様・阿波様</p> <p>広く奥羽から関東にかけて 知られた信仰。若衆達が前 日から神社に集まり、飾花、 供物、行灯を作る。みこし を迎える家では藁に火をつ け、篝火をたいて迎える。 火は二メートル位立上り、 その火を何度もけちらして 行く。この祭りを境として 春の農作業に入り、水田耕 作が始まる。</p> <p>百万遍・雛祭</p>
---	--

<p>5・5</p> <p>端午の節句</p> <p>初節句の家では新しい鯉幟 を上げる。菖蒲と蓬を神仏 と自分の家の屋根に供える。 柏餅を作る。</p> <p>早苗饗正月</p> <p>田植えの終った家では、餅</p>	<p>3・21</p> <p>彼岸</p> <p>各家の菩提寺へ重箱に白米 を入れて挨拶に行き墓参す る。彼岸団子を仏様にまつ る。念仏講中は彼岸の入り と中日と終りに講をする。</p> <p>お不動様</p> <p>種播祝</p> <p>釈迦の日にこの辺りでは種 播祝をする。水稲の種子を 播き残りのものを乾燥して 焙烙でいり、これを苗代に まき虫除の御札を竹に挿し 畦に立てる。村中はこの日 手休めとなり、その後は農 繁期に入る。</p> <p>貰え正月・手休め</p> <p>手休めの日としての月六斎 (毎月一・七・十一・十五 ・二十一・二十八日の六日 間は午後三時で仕事を終 る) 以外の手休めの日。</p>
--	--

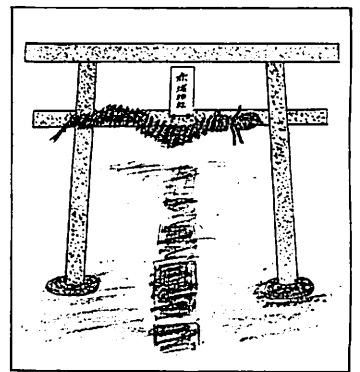
<p>8・1</p> <p>灯籠立</p> <p>新盆の家では、庭に灯籠を 立て近所や組の人、親戚が</p>	<p>7・14</p> <p>百万遍</p> <p>長さ七、八メートル程の数 珠を七人が輪になり、南無 阿弥陀仏と鉦に合わせて千 回まわして終りになる。珠 数の房で体の悪いところを さすって全快を祈り、全員 揃って虫符<small>むじ</small>をつけた笹竹を 各村境に立てる。採れたて の蚕豆を皆で食べる。現在 は九郎左衛門新田と主水新 田のみが残っている。</p>	<p>7・1</p> <p>5・31</p> <p>晦日払い</p> <p>浅間講</p> <p>浅間参りと称して現在の新 松戸七丁目の稲荷神社の浅 間様へ登拝する。手甲脚絆 に着真座、笠をかぶり金剛 杖について参拝する。氏子 一同は神社に集まり神社の 掃除をする。</p>
--	---	---

8・13	8・14	8・15・16	9・
<p>集まり、一ヶ月の間灯を入れて霊を慰める。</p> <p>迎盆</p> <p>街道の入口の所へお棚を作り、花立を二本立てて迎火を焚き先祖を迎える。</p> <p>墓参</p> <p>朝四時頃の暗いうちから墓参りに素足で行く。主人は墓参りをしたその足で、作物の様子を先祖に見てもらうために田畑をまわって帰る。墓へは供花・線香・水・あられを持って行く。帰ってからの朝食は南瓜の煮付を食べる。</p> <p>送盆藪入り</p> <p>嫁・婿・やとい人等が生家に一晚帰って骨休めをする。うなぎや川魚を生家のみやげにする。</p> <p>十五夜</p> <p>旧暦の八月十五日の夜。月見をする。秋の七草を挿し秋果や15個の団子を供える。</p> <p>秋彼岸</p> <p>秋分の日を中心とする前後三日間の計七日間をいう。</p> <p>新胡麻、新小豆などで新米</p>	<p>の餅米を使ったお秋を供える。</p> <p>晦日払・お釜様</p> <p>火の神、荒神とも呼ばれるかまどの神様を台所に祀る。一升杓に山盛りに団子を盛って供える。</p> <p>刈切</p> <p>稲刈りは早稲・中稲・遅稲と昔は二ヶ月にも及んだ。稲の刈取りが終った日に鎌に餅を供え祝う。丁度これっきりで田の仕事が終りというお祝。刈切ぼたもちとってお秋を馳走する。</p> <p>秋祭</p> <p>村中で神社に集まり祝う。</p> <p>鴉払い</p> <p>糶を全部玄米にした日に祝う。</p> <p>祭</p> <p>秋の収穫も全部終り、神社の祭礼を行う。宵宮・本宮・上り祭と祝う。</p> <p>お会式</p> <p>本土寺で行う。日像様の日で昭和四十年位まで続いた。七五三の祝</p> <p>女子は三歳と七歳、男子は</p>		

9・30	10・	10・15	11・	11・3	11・12	11・15
<p>三歳と五歳のお祝。</p> <p>鼻汚し</p> <p>荒神様を祀り、お汁粉を祝う。</p> <p>八日節句</p> <p>庭などに籠を下むきに吊す。正月に金銭などが多く入る一年であるようにと上向きにした籠を、八日節句では、年内には何も出費などがないうようにと下へ向ける。</p> <p>御籠</p> <p>冬至風呂</p> <p>一年中で最も日が短く、この日はひと冬元気で暮らせるようにと、柚子を入れた風呂に入り、夜は粥や南瓜、蒟蒻などを食べる。</p> <p>煤払い</p> <p>一年中の煤を払って神棚や仏壇をきれいにする。</p> <p>大晦日・晦日払い</p> <p>一年の最後の日で、晦払いを行う。蕎麦を神仏に供え、一年の守護のお札をする。又神社に籠り、新年を迎えるために夜明しをする。</p>	<p>10</p> <p>刈切</p> <p>稲刈りは早稲・中稲・遅稲と昔は二ヶ月にも及んだ。稲の刈取りが終った日に鎌に餅を供え祝う。丁度これっきりで田の仕事が終りというお祝。刈切ぼたもちとってお秋を馳走する。</p> <p>秋祭</p> <p>村中で神社に集まり祝う。</p> <p>鴉払い</p> <p>糶を全部玄米にした日に祝う。</p> <p>祭</p> <p>秋の収穫も全部終り、神社の祭礼を行う。宵宮・本宮・上り祭と祝う。</p> <p>お会式</p> <p>本土寺で行う。日像様の日で昭和四十年位まで続いた。七五三の祝</p> <p>女子は三歳と七歳、男子は</p>	<p>10・15</p> <p>秋祭</p> <p>村中で神社に集まり祝う。</p> <p>鴉払い</p> <p>糶を全部玄米にした日に祝う。</p> <p>祭</p> <p>秋の収穫も全部終り、神社の祭礼を行う。宵宮・本宮・上り祭と祝う。</p> <p>お会式</p> <p>本土寺で行う。日像様の日で昭和四十年位まで続いた。七五三の祝</p> <p>女子は三歳と七歳、男子は</p>	<p>11・</p> <p>鴉払い</p> <p>糶を全部玄米にした日に祝う。</p> <p>祭</p> <p>秋の収穫も全部終り、神社の祭礼を行う。宵宮・本宮・上り祭と祝う。</p> <p>お会式</p> <p>本土寺で行う。日像様の日で昭和四十年位まで続いた。七五三の祝</p> <p>女子は三歳と七歳、男子は</p>	<p>11・3</p> <p>祭</p> <p>秋の収穫も全部終り、神社の祭礼を行う。宵宮・本宮・上り祭と祝う。</p> <p>お会式</p> <p>本土寺で行う。日像様の日で昭和四十年位まで続いた。七五三の祝</p> <p>女子は三歳と七歳、男子は</p>	<p>11・12</p> <p>お会式</p> <p>本土寺で行う。日像様の日で昭和四十年位まで続いた。七五三の祝</p> <p>女子は三歳と七歳、男子は</p>	<p>11・15</p> <p>七五三の祝</p> <p>女子は三歳と七歳、男子は</p>

11・30	12・8	12・14	12・22	12・25・26	12・31
<p>三歳と五歳のお祝。</p> <p>鼻汚し</p> <p>荒神様を祀り、お汁粉を祝う。</p> <p>八日節句</p> <p>庭などに籠を下むきに吊す。正月に金銭などが多く入る一年であるようにと上向きにした籠を、八日節句では、年内には何も出費などがないうようにと下へ向ける。</p> <p>御籠</p> <p>冬至風呂</p> <p>一年中で最も日が短く、この日はひと冬元気で暮らせるようにと、柚子を入れた風呂に入り、夜は粥や南瓜、蒟蒻などを食べる。</p> <p>煤払い</p> <p>一年中の煤を払って神棚や仏壇をきれいにする。</p> <p>大晦日・晦日払い</p> <p>一年の最後の日で、晦払いを行う。蕎麦を神仏に供え、一年の守護のお札をする。又神社に籠り、新年を迎えるために夜明しをする。</p>	<p>12・8</p> <p>八日節句</p> <p>庭などに籠を下むきに吊す。正月に金銭などが多く入る一年であるようにと上向きにした籠を、八日節句では、年内には何も出費などがないうようにと下へ向ける。</p> <p>御籠</p> <p>冬至風呂</p> <p>一年中で最も日が短く、この日はひと冬元気で暮らせるようにと、柚子を入れた風呂に入り、夜は粥や南瓜、蒟蒻などを食べる。</p> <p>煤払い</p> <p>一年中の煤を払って神棚や仏壇をきれいにする。</p> <p>大晦日・晦日払い</p> <p>一年の最後の日で、晦払いを行う。蕎麦を神仏に供え、一年の守護のお札をする。又神社に籠り、新年を迎えるために夜明しをする。</p>	<p>12・14</p> <p>御籠</p> <p>冬至風呂</p> <p>一年中で最も日が短く、この日はひと冬元気で暮らせるようにと、柚子を入れた風呂に入り、夜は粥や南瓜、蒟蒻などを食べる。</p> <p>煤払い</p> <p>一年中の煤を払って神棚や仏壇をきれいにする。</p> <p>大晦日・晦日払い</p> <p>一年の最後の日で、晦払いを行う。蕎麦を神仏に供え、一年の守護のお札をする。又神社に籠り、新年を迎えるために夜明しをする。</p>	<p>12・22</p> <p>冬至風呂</p> <p>一年中で最も日が短く、この日はひと冬元気で暮らせるようにと、柚子を入れた風呂に入り、夜は粥や南瓜、蒟蒻などを食べる。</p> <p>煤払い</p> <p>一年中の煤を払って神棚や仏壇をきれいにする。</p> <p>大晦日・晦日払い</p> <p>一年の最後の日で、晦払いを行う。蕎麦を神仏に供え、一年の守護のお札をする。又神社に籠り、新年を迎えるために夜明しをする。</p>	<p>12・25・26</p> <p>煤払い</p> <p>一年中の煤を払って神棚や仏壇をきれいにする。</p> <p>大晦日・晦日払い</p> <p>一年の最後の日で、晦払いを行う。蕎麦を神仏に供え、一年の守護のお札をする。又神社に籠り、新年を迎えるために夜明しをする。</p>	<p>12・31</p> <p>大晦日・晦日払い</p> <p>一年の最後の日で、晦払いを行う。蕎麦を神仏に供え、一年の守護のお札をする。又神社に籠り、新年を迎えるために夜明しをする。</p>

1・7	1・13
<p>七草粥</p> <p>いわたゆる七草を入れた粥を炊き、神様仏様にそなえる。</p>	<p>幸谷の年中行事</p> <p>元旦・初詣</p> <p>一月三日までの三ケ日は、女達は台所に入らず男衆（その家の主）が朝のおそなえをする。若水を汲み大神宮様に神酒をあげ、おそなえをする。昼は、御飯を炊きなますを神の膳にあげる。氏子は幸谷の氏神様である赤城神社に初参りをする。年番が決っていて参拝に来た人にお神酒をふるまう。三日間同じ事をする。又各家々では、二日三日に親戚などへ年始まいりをする。</p>



正月注連縄

1・11	歳開き 朝、くわを持ってあきの方を向いて「一畝さっくり」と言つて土を掘り、暮に畝につけた松と輪飾りをその土の山に挿してくる。昼は、蔵に御飯、お頭つきの魚、みそ汁、酢のもの、お新香を上げ、豊作を願う。
1・14	若餅つき・蘭玉 平年は十二個、うるう年には十三個、柳の木にお供えをつける。餅つきが終ると、柳の木でけずり花をつくり、にわたこの木で花をつくり十五日に供える。正月に供えたお供えは、この夜全部おろす。
1・15	小豆粥 柳箸といつて柳の木を八つに割り、その先に小豆粥をつける。又先日作つたけずり花と共に供える。(あほひぼ)
1・18	初観音 稲の花
1・20	豊作を願つて藁のみこを十本位束ねて水で濡らし、こがし(米の粉)をつけて正

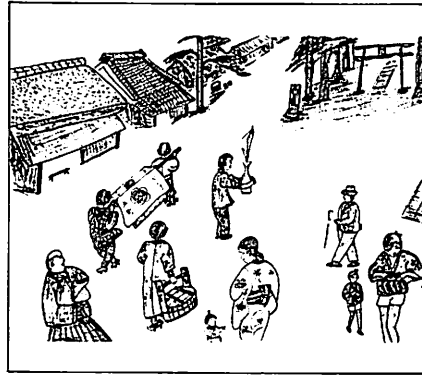
1・25	天神様 笹に二十五個の米の団子をつくつてつける。それを天神様に上げにいく。お供えしたものを上の方の七個位折つて家に持帰り、家族皆で頂く。
2・	初午 二月初めの午の日稲荷にのぼりを立て、神酒をあげて供える。おびしゃを組ごとにやる。当番があり、その家が宿となる。昼は女性、夜は男性が参加する。
2・3	節分 各家ごとに行う。終に目刺をさし、豆を自分の家屋敷にまいてから、赤城神社、観音様、天神様にまきにいく。
2・8	八日節句

3・3	雛祭
3・20	彼岸
4・8	花祭
4・18	観音様・四万六千日 この日にお参りをするので四万六千日詣をしたほどの御利益があると云われる。昔は観音講といつて近在から参詣に来たが、戦争をさかいにして途絶えた。
5・5	五月節句 田植え 田植えが終ると餅をついて、手伝いの人にもふるまい、あんころ餅をお寺へ持っていった。苗を七株にわけて荒神様に供えた。
7・7	七夕まつり
7・15	宮なぎ
7・21	お宮の掃除 土用干
8・10	観音様
8・12	この日と十八日もある。 盆支度 墓へがらから(仏様の膳や花入れを今年竹で作つたもの)を立てにいく。

8・13	迎盆 午前中に盆棚を自宅の居間につくる。夕方提灯をつけて御先祖様を迎えに行く。あんころ餅をつくつて供える。翌早朝に墓参りに行く。その時も提灯をつけ、あらよね(キュウリ・ナスなどをきざんだもの)を持って、裸足でお参りに行く。昼は御飯、煮物(茄子・南瓜・焼豆腐)みそ汁(豆腐)を仏様に供える。おやつはうどん、夜食は小豆御飯、あえもの(ささげの味噌あえ)里芋の味噌汁を供える。
8・15	送盆 昼は十四日と同じものを作る。夜は送り団子をつくる。
8・24	うら盆 十五日
9・	旧暦の八月十五日。団子をつくり、秋の七草を挿して月見をする。
10・13	秋彼岸(秋分の日前後) 彼岸団子、お中日はた餅をお寺に届けて墓まいりをする。 秋祭 赤城神社の祭礼、大蛇をそ

10・31	お釜さま・荒神様 砂を盛ってその上に松を立て米の団子を三十六個お供えする。お釜の団子で数ばかりという譬えがありこの意は数ばかりあってもあまりいいものではないということ。
11・30	鼻よこし 餅をついてお汁粉をつくる。これは下谷の水辺の祭り、水に落ちない様に安全を祈って行われた。
12・8	八日節句 箒を伏せて吊す。二月は起こして吊すが十二月は、お金が必要以上に出ないようにとの願い。又この日は大掃除の日と決めていた。雨天の場合は十三日とした。
12・10	観音様 十日と十八日の二回。
12・22	冬至風呂 中気封じにこんにゃく、南瓜を食べる。
12・28	餅つき 二十九日は苦につながるの餅つきはしない。

12・30	正月飾りをする。一夜飾りは縁起が悪い。
12・31	大晦日・除夜の鐘 除夜の鐘を聞いて初詣に行く。



御膳上げ

1・1	元旦・初詣 八坂神社へお参りに行く。元旦祭は氏子全員では行わない。女の人が雑煮を作る（人参ごぼう、里芋、切餅。御膳上は上町を四組に分け、毎月順番で受持つて行う。鯉を（出来るだけ大きいもの）岡持に入れ、三方に米・塩・
-----	--

1・2	年頭配り 商家のみが行う。町内は勿論のこと土村や栗ヶ沢、佐野、名都借など関連のある所へ名入りの手拭いを持って回った。（これは各店それぞれ商圏によって違う）
1・7	七草粥 松飾りをとる。小松菜の粥を食べる。
1・8	八日節句 背負籠を上向きにする。
1・11	蔵開き お供え崩しをして雑煮を作る。
1・14	藪玉 椿の木を使う。葉をつけたまま紅白の丸餅をつけて祝う。木の花はなし
1・15	藪入り・小豆粥 使用人には新しい着物を着せて家へ帰す。
1・16	お汁粉 藪入りなどで帰って来たり

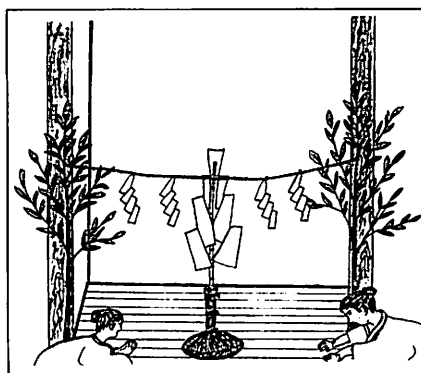
1・30	御籠 毎月行った。十四日籠・三十日籠の二回。指回しがまわり金（賽銭）を入れて次の家へ回す。お籠りにいれない家はお茶菓子（煎餅など）を届ける人もいた。下町は平成五年現在もやっているが、昼間だけ。
2・3	節分祭 個人で行う。年の数だけ豆を食べる。家中に柀に鯛をさしたものを飾った。
2・20	疱瘡日待 初午の翌日に女・子供の祭を行う。宿は順番で受持つ。小豆飯と葱と豆腐の煮物を食べる。赤い幣束を立てた棧俵を天王様の石の祠の前へ置く。学校から帰宅した子供達も加わって御馳走を食べる。自由に旅行などが出来る時代が来て、この祭はなくなった。
2・20	おびしゃ 現金を積立てたり、田の出来高などの利息（びしゃ田）

4・1	3・21	2・25	夜
大師講 一日から一週間法螺貝を吹き大師様を背負って赤飯や草餅を寺へ持っていく。東	彼岸の中 坂川の組合の藻刈で、東漸寺で区長が町内の割振をする。	天神講 子供達の講 宿は順番で行った。ざるを持ち金棒をついて「ろうそくくっせ。銭くっせ」と各家を回った。五日御飯や団子を食べる。 百万遍 大きな珠数を回しながら念仏を辻々でとなえる。東漸寺の辻など。この時の珠数は、現在の小金小学校資料館にある。辻切は立てない。 藻刈	や、上町は田が無かったので貸付金の利息などを利用して祭を行った。 恵比寿講 旧家の商人の大仏屋に出入りの人が呼ばれて行った。

7・13	7・1	5・5	4・24 25	4・8
祭礼 みこしを出して、上町から中、下町へと回る。	八坂神社に弓竹を張る 真竹の大きいものを道の両側に立て注連縄を張る。上、中、下三ヶ所に立てる。こは神聖な場所だという意味があり疫病等を防ぐ。	早苗鑿 自分の家の田植えが終わった時に手伝いの人も含めて御馳走を作ってふるまう。	御忌 学校から先生と共に東漸寺に行き僧侶から道徳的な説話を聞く。帰りは紅白の御供物を貰う。檀家の若い人が、円光大師の像をかっついて回る。	花祭 東漸寺で行う。

9・30	9・18	9・	8・16	8・15	8・13	7・15	7・14
火防の祭 三日間。	秋彼岸 秋分の日を中心とする前後	秋彼岸 秋分の日を中心とする前後	秋彼岸 秋分の日を中心とする前後	秋彼岸 秋分の日を中心とする前後	秋彼岸 秋分の日を中心とする前後	秋彼岸 秋分の日を中心とする前後	秋彼岸 秋分の日を中心とする前後

1・1 元旦・初詣
二ツ木の年中行事



抱癒日待

12・31	12・22	12・8	11・12	10・
大晦日 商家は明け方まで働いた。	冬至風呂 籠を下向きに吊す。	八日節句 日像風といわれる風が吹く。	お会式 本土寺の日像様の日によく	刈切 稲の刈取が終わった家は刈切祝いをする。

1・14	1・11	1・8	1・7	1・15	1・15	2・15	7・14
1・14	1・11	1・8	1・7	1・15	2・15	7・14	7・14
餅や蜜柑、木の花をつけて	蔵開き・念仏講・お供え崩し各家の蔵を開く。お供えを崩して焼餅にしてだし汁と小松菜の汁に入れる。念仏講は常行院で行う。両方共正月念仏。	背負籠を上向きにつけて高く吊す。	七草粥・念仏講・お日待小松菜となすなど餅を入れる。一日と十五日にしている念仏講は、正月だけこの日にする。光明院で行う。お日待は消防の出初めに行つてからする。	飾る。繭玉崩しは大体二十日位。	小豆粥	初庚申	ろ餅をついた。
柳・椿・なら等の各家にある木に紅・白・みどりの丸餅や蜜柑、木の花をつけて	蔵開き・念仏講・お供え崩し各家の蔵を開く。お供えを崩して焼餅にしてだし汁と小松菜の汁に入れる。念仏講は常行院で行う。両方共正月念仏。	背負籠を上向きにつけて高く吊す。	七草粥・念仏講・お日待小松菜となすなど餅を入れる。一日と十五日にしている念仏講は、正月だけこの日にする。光明院で行う。お日待は消防の出初めに行つてからする。	繭玉崩しは大体二十日位。	卯木の木の箸につける。	かえ申の日。神酒を上げる。常行院で念仏講	宮なぎ
2・	2・3	2・1	1・25	1・20	3・初	3・初	8・13
2・	2・3	2・1	1・25	1・20	3・初	3・初	8・13
初午祭	神社に行つてから個々にまく。鯛と終を豆がらに挿し軒先などに挿しておく。	疱瘡日待・念仏講	天神講	お汁粉を作る。	区長の采配で、彼岸前の農閑期に行く。	彼岸	迎盆
その年初めての午の日に言う。神社に油あげ、豆腐を上げてそのあと役員で食べる。	神社に行つてから個々にまく。鯛と終を豆がらに挿し軒先などに挿しておく。	棧俵に神を左右に飾り、注連を張り赤・白・金の幣束を棧俵の芯に挿し床の間などに飾る。念仏講は光明院。	天神山で（現在の南中学校の上）で行う。持参した笹の団子を焼いて食べる。	二十日おびしや・御膳上・稲の花	彼岸	彼岸	お寺まで迎えに行く。がらがらを家の角に立てる。墓参りは素足で行く。
5・1	4・30	4・25	4・8	3・17	3・17	3・17	8・14
5・1	4・30	4・25	4・8	3・17	3・17	3・17	8・14
早苗鑿	戸守護札を貼りかえる。	御忌	たね播祝	彼岸	彼岸	彼岸	彼岸念仏
田植えの終わった日、あんこ	戸守護札を貼りかえる。	東漸寺の御忌の日は、親戚の人を呼ぶ。草餅をつき生徒は学校からお堂に行つて説教を聞いた。親孝行の話など。	田に苗代を作つてよく苗が育つように祈る。	彼岸	彼岸	彼岸	送盆
10・19	10・15	9・30	9・1	8・24	8・18	8・15	8・15
10・19	10・15	9・30	9・1	8・24	8・18	8・15	8・15
秋祭	秋の更衣	刈切ぼた餅	御膳上げ	常行院の御施餓鬼	光明院の御施餓鬼	常行院の御施餓鬼	常行院の御施餓鬼
蘇羽鷹神社の祭。現在は子供のみこしを出すので、近くの日曜日に行く。	秋の更衣	刈切ぼた餅	御膳上げ	常行院の御施餓鬼	光明院の御施餓鬼	常行院の御施餓鬼	常行院の御施餓鬼

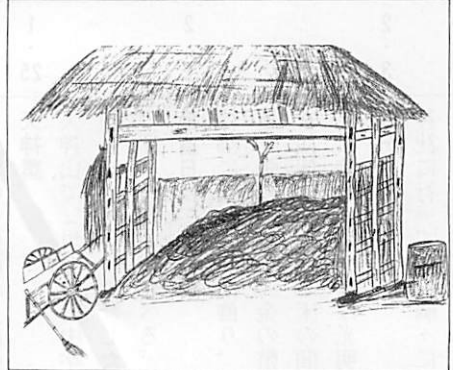
11・1	光明院念仏講
11・15	常行院念仏講
11・29	七五三の祝 鉦・太鼓洗い 一年の念仏講が終るので使ったものを清めて納める。
12・8	八日節句 背負籠を下向きにして吊す。
12・22	冬至風呂
12・25頃	煤払い 正月の餅をつく前に行った。
12・31	大晦日

二ツ木庖瘡日待の唱えごと

はっせ ほーそがみさま
一、こんにちのがみさまわ
どちのかたからまいりたよ
あきのくに あきたのこをり
まきばしわたりてまいりたよ
(くりかえし)

二、これさまへ まいりもうして
もがみさまをみもうせば
きんぎんのごへいそくで
またいるがみでしめをはり
三、こんにちのがみさまに
なんでごちそういたします
いしざらへあずきをもりて

それでごちそういたします
四、こんにちのがみさまわ
ごきげんよろしのがみさま
あさおきておわらいがほして
あかねのずきんでまいあそぶ
あかねのずきんでまいあそぶ



横須賀 稲の花

横須賀の年中行事

1・1 元旦祭・初詣・一礼
女体神社へ行く。(たまわり)

1・4 仕事始・初荷

1・7 七草粥
粥に餅と小松菜を入れる。

1・8 八日節句
竹竿の先に籠を上向きに吊す。

1・11	初耕起 門松からとった松を立てる。
1・14	蔵開 蕪玉 椎の木と買ったけずり花で作る。餅つきをして丸餅、角餅を赤色に着色したものも混ぜてつける。
1・15	御籠 正・五・九の御籠で鎮守様です。唱えるのは不動様の真言の般若心経。中食は集めた米で握飯をつくる。 小豆粥 餅粥で、卯木の木で箸を作る。
1・16	藪入り
1・19	三峯講
1・20	正・五・九に行う。 稲の花 あほひぼ(篠竹ににわとこを切ってあわ・ひえをつける)多くつくって堆肥の上や神様に供える。
夜	恵比寿講
1・25	天神講 子供のための行事
1・31	晦日籠 毎月晦日には隠居や年寄が

2・	集まってお籠をする。 庖瘡日待
2・3	二月始めの申の日 節分祭 この日に井戸にいり豆を入れ病目払いをする。 初午祭 えぼり、ゆいぼりの費用で行う。神社で大人だけで行う。この日に一年の代参人を決め農閑期に筑波・三峯・大山(決ってから二、三月頃に行く)などに参拜に行き、お札をもらって来る。 代参に行った人は氏子にお札と、マッチを配る。
3・3	節句・雛祭 用悪水ざらえ・道普請
3・21	彼岸 彼岸前にとり行う。
3・27、29	お不動様 馬橋の万満寺のお不動様の日で個々で参加。 節句過ぎに苗代の草取り、持寄りの味噌作りをする。

4・1・17	大師講
4・8	江戸川八十八ヶ所霊場巡り 種播祝
4・15	草餅をつくって祝った。 手休め
4・24・25	東漸寺の御忌
5・5	端午の節句
5・15	早苗饗正月
5・20	えがえし

7・初め	藻刈
7・14	宮なぎ・土用干
7・27	夏祭
8・7	七夕
8・13	迎盆
8・14	墓参
8・15	送盆敷入り
8・23	おすわ様の祭礼

8・24	盂蘭盆
9・1	御籠
9・15	十五夜
10・15	秋祭
10・20	刈切
11・初め	麦蒔
11・12	お会式
11・20	恵比寿講
11・30	鼻汚し
12・8	八日節句
12・22	冬至風呂
12・24	柚子湯に入る

1・6	平成五年 全体会議
2・2	新松戸西小学校三年生来館
2・3	全体会議
2・23	常盤平第一小学校三年生来館
2・24	公開講座(第26回)
3・3	旭町小学校三年生来館
3・6	馬橋北小学校三年生来館
3・12	馬橋北小学校三年生来館
3・17	馬橋北小学校三年生来館
3・21	松戸ポリースカウト来館
3・3	全体会議
4・4	新松戸南小学校三年生来館
4・5	根木内東小学校三年生来館
4・6	新松戸南小学校三年生来館
4・13	館報第六号(水車)発刊
4・18	新松戸北小学校三年生来館

12・25	年市
12・26	煤払い
12・31	大晦日
12・31	隔居・年寄は午後から御籠

日誌抄

10 1	29	22	8	9 1	25	4	23 24	7 7	22	2	1	31	10	9	5 5	20	7	4	29	20	18							
館長講演(新松戸北小学校)	館員勉強会(第2回)	研修(筑波森林研究所)	館員勉強会(第1回)	展示コーナー増設	全体会議	子供歴史教室再会日	全体会議	館長講演(旭小学校)	第10回子供歴史教室開催	全体会議	研修(坂川の源流から下流まで)	全体会議	館長講演(旭小学校)	財政援助団体監査	研修(小金城跡・達磨遺跡)	全体会議	研修(渡良瀬遊水池)	館長講演(新松戸南中学校)	理事会	松戸市企画課来館	読売新聞記者取材(古地形)	市監査委員来館	全体会議	子供劇場のグループ来館	国分高校生来館	理事会	館長講演(文化ホール)	館報発送



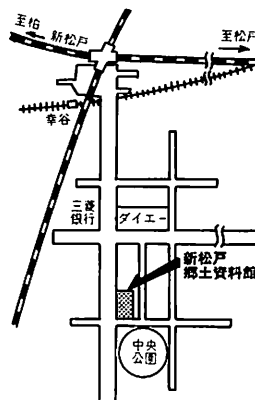
念仏講

26	9	6	12 1	28	24	17	10	8	11 5	27	20	6	10 6																
大掃除・仕事納	館員勉強会(第3回)	幸谷小学校四年生来館	館長講演(古ヶ崎市民センター)	松戸市広報課撮影協力(新松戸北小学校六年生参加)	全体会議	殿平賀小学校四年生来館	館員勉強会(第5回)	明治時代の教科書展示	松戸市広報課撮影協力(新松戸北小学校六年生参加)	全体会議	館員勉強会(第4回)	幸谷小学校四年生来館	館長講演(矢切公民館)	会計監査	全体会議	館員勉強会(第5回)	明治時代の教科書展示	松戸市広報課撮影協力(新松戸北小学校六年生参加)	全体会議	殿平賀小学校四年生来館	館員勉強会(第3回)	幸谷小学校四年生来館	館長講演(矢切公民館)	会計監査	全体会議	館員勉強会(第4回)	幸谷小学校四年生来館	館長講演(文化ホール)	館報発送

4 12	3 3	元 2	平成	63 1	7	62 3	昭和	61 11
第六号	第五号	第四号	第三号	第二号	第一号	創刊号	昭和	創刊号
旧六ヶ村とは・六ヶ村の成立ち・台地と下谷の飛地・台地から下谷へ続く道	下谷の講と年中行事・人口と戸数の推移・その他	屋号と苗字・家紋・旧六ヶ村の成立ち・屋号分類表	江戸川と坂川・源流・河川工事と行政の推移・橋の名・洪水と治水年表・その他	新松戸の石造物・野草今昔	区画整理以前以後・展示室について・展示品寄贈者名	財団法人の発足にあたって新松戸の都市化・職員紹介	昭和	創刊号

既刊館報「水車」一覧表

- ▽開館日 毎週水曜・日曜日
- ▽時間 10時～16時(ただし、入館は15時30分迄)
- ▽入館料 無料
- ▽所在地 松戸市新松戸3-27
- ▽電話 ☎44-1909



編集後記

下谷の年中行事を取材している内に、台地との行事の違いを耳にすることがあった。調べて行くうちに、台地でも又、村々によって微妙に違った行事のおこない方があった。現在ほとんど消えてしまっている所や、氏子達が変わらずに昔の行事を守っている所等、興味のつきない収集だった。